



狛江市コミュニティ・スクール  
イメージキャラクター  
コミュちゃん

# コミュニティ・スクール通信 NO.4-1

## ～ 一中ゾーンの地域学校協働活動の具体的取組み ～

発行/令和4年9月 発行者/学校教育課 担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

狛江市におけるコミュニティ・スクール（CS）の周知と推進を図るため、「コミュニティ・スクール通信」と題して、シリーズ(月1回発行)でお知らせします。

### これまでの地域協力とこれからの「CSと地域学校協働活動の一体的な推進」

まず、一中ゾーンの事例を紹介する前に、これまでの地域協力と、これからの「CSと地域学校協働活動の一体的な推進」の違いを図式化してみました。

地域の方々が、学校の授業に協力したり地域の子どもの実態に関心をもったりするということはこれまでと同じようでも、学校も地域も「学校運営協議会」という新しい組織を通して、社会総がかりで共通の目標をもち、全員が当事者として子どもたちの育ちに関わっていくということがこれまでとの大きな違いです。共通の目標が設定されると、お互いに前向きな姿勢で取り組むことができ、子どもたちへの教育効果も大いに期待できます。

#### これまで（CS導入前）

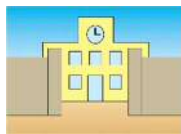


地域



個別に依頼された個々の授業協力

地域の子どもたちの実態への関心



学校



学校の教育目標、目指す児童・生徒像

(例1) 地域人材を活用した学習が、イベント的な取組みになることがある。担当や担任が変わると、取組み自体が継続されずになくなってしまう。

(例2) 近くの駐車場で子どもが騒いで遊んでいたりと、道に広がって登下校したりしていると、近隣住民から学校に苦情や指導を望む電話が入る。

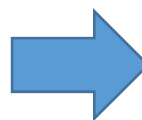


#### これから（CS導入後）



地域

学校運営協議会

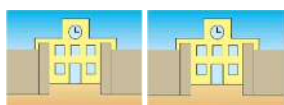


9年間の義務教育を修了したときの子どもたちの姿(目標)を共有

- ・社会総がかり
- ・より質の高い学び
- ・地域が学校の応援団
- ・適切な役割分担



学校



(例1) 地域住民等の考えやゾーンの特徴・特性を生かした取組みを、組織的・継続的に行う。

(例2) 学校任せにするのではなく、地域住民等が学校と共に、社会規範意識を育てる対策を具体的に考える。